



年 組 名前

道新でワークシート

牛の電子カルテ 来春稼働

【音更】十勝管内音更町のベンチャー企業「ベッテル」は、現在テストを進めている牛の電子カルテの正式版を、来年4月に稼働させる方針を固めた。従来の管理システムに比べ、獣医師との情報共有を常時できるようにした設計が特長で、4道県の農家から4万7千頭分の受注を得られる見通しという。健康管理を徹底し、農家の収益改善につなげたい考え。

音更のベンチャー「ベッテル」

開発中の電子カルテは、農家が与えた薬や餌の摂取量など日々のデータを入力すれば、獣医師がタブレット端末などいつでもどこでも確認できるようにした。直接牧場へ出向かなくても健康状態を把握でき、往診する必要があるかどうかの判断にも役立つ。

（生田憲）

収益改善へ健康管理を徹底

電子カルテは治療費や飼料代などの経費と売り上げデータを入力することで個体の損益を計算する機能も備えており、牛の健康を保つことが収益の向上にだけ結びついたかを確認できる。利用料は1頭当たり年間3千～5千円を想定している。

ベッテルの池田哲平社長は「農家も獣医師も忙しい。健康状態を共有するためのコミュニケーションのコストを下げたい」と話している。

2019年10月3日（木）朝刊 全道版 11面

①この電子カルテは、どのような人に活用されると考えられますか。

②この電子カルテが、獣医師にとって便利な点はどのようなことですか。